

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○物語の中での表現の効果や人物の設定についての正答率は県平均、全校平均並であった。 ○授業で学習したことを実生活に役立てようとする生徒の割合が県平均よりも多かった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く力に課題がある。 ●読み手の立場に立って文章を整える力に課題がある。	・お互いに文章を読む活動を取り入れ、視点をもって批判的に文章を読む力を通して自分が根拠を明らかにして書く力を養う。 ・生徒にとって取り組みやすい身近なテーマ設定の上で、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方・使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうか確かめて文章を整えるような活動を授業内で行う。
数学	○データの活用の領域では、全国に比べて平均正答率が高かった。 ○「知識・技能」は概ね身に付いている。 ●「関数」領域の利用問題に苦手意識をもっている。 ●記述問題では無回答率が高かった。	・身に付いてきた「知識・技能」を使って、説明したり新たな課題を見つけたりできる活動を取り入れる。 ・式、表、グラフのつながりを理解できるように関連付けたドリルを行う。 ・無回答率を抑えるために、対話的活動を意識的に取り入れる。
理科	○正答率が70%以上であったものの多くは、「知識・技能」を問う問題であり、それらは「エネルギー」及び「粒子」を柱とする領域から出題された問題であった。 ●正答率が50%以下であったものの多くは、「思考・判断・表現」を問う問題であり、すべての領域にわたっていた。	・授業における「課題の把握」や「授業内容の振り返り」を丁寧に行い、学習内容の定着を図る。 ・家庭学習を通して学習内容が定着するような取組を行う。 ・実験や観察を積極的かつ丁寧に行い、科学的な事象や考え方に対する関心や意欲を高める。

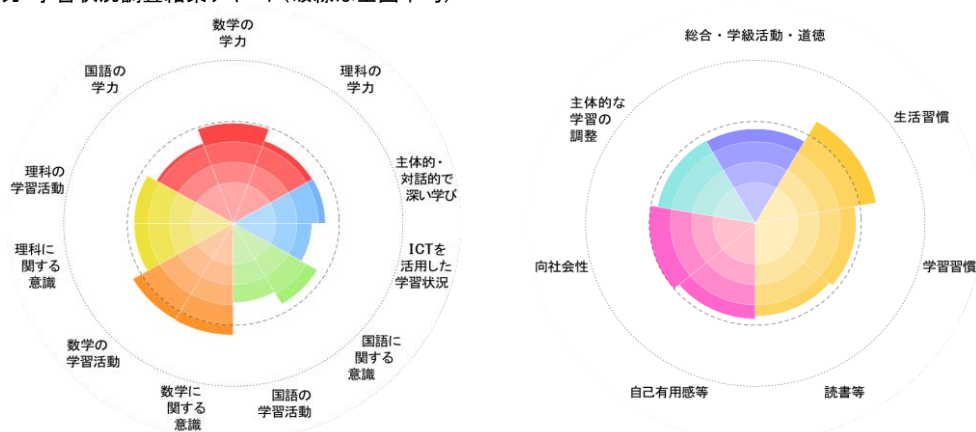
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○普段から話し合い活動で他者の意見に触れることが多いため、自分と異なる意見について考えることを楽しく感じる生徒が多い。 ○総合的な学習の時間で調べたことを発表する機会が多かったため、自分で課題を見つけ情報収集する力が身に付いている。 ●読書の習慣が身に付いていない生徒の割合が多い。 ●学習した内容が生活や将来に生かせると思う生徒が少ない。	・日々の朝読書を積み重ねる。 ・総合的な学習の時間の他にも、ICT機器を使用する機会を積極的に設け、図や表、グラフなどでも自分の考えをまとめる活動を取り入れる。 ・授業内容を実生活と関連付ける授業を展開する。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・朝読書の時間の充実を図る。 (生徒それぞれが集中して活字と向き合う、ボランティアさんの読み聞かせにより自分の興味分野以外の内容にも親しむ) ・生徒が授業でICT機器を使用する時間の割合を増やす。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

182

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

